

■ 前中期経営計画の振り返り

前中期経営計画（2021年度～2025年度）では、「高速道路における安全・安心実施計画」に定めるリニューアルプロジェクトやワイヤロープ設置などの事故対策を進捗させるとともに、新型コロナウイルス流行下においても高速道路の維持・管理や休憩施設におけるサービス提供の継続に努めてきました。

さらに、物流2024年問題、サステナビリティへの社会的要請、道路関係法令の改正（料金徴収期間の延長）などの事業環境の変化にも適切に対応しながら、地域や社会から寄せられる期待に応えるべく、グループを挙げてさまざまな施策を着実に進めてきました。

〔基本方針1〕

安全・安心で自動運転等の
イノベーションにも対応した
快適な高速道路の実現

暫定2車線区間の
ワイヤロープの設置
173km (累計494km)

EV急速充電器の
設置拡大
174口 (累計325口)

〔基本方針2〕

老朽化や災害に対する
高速道路インフラの
信頼性の飛躍的向上

リニューアルプロジェクト
(橋りょうの床版取替)
142橋 (累計184橋)

SA・PA等の
防災拠点整備
20カ所 (累計61カ所)

〔基本方針3〕

高速道路の整備・強化と
4車線化の推進による
ネットワーク機能の充実

暫定2車線区間の
4車線化
圏央道 24.3km

スマートIC設置等による
アクセス強化
12カ所

〔基本方針4〕

多様なお客さまのニーズを
踏まえた使いやすさの追求

SA・PAの
大型駐車マスの増設
555マス

ETC時間帯別料金の
社会実験
東京湾アクアライン

〔基本方針5〕

持続可能な社会の
実現に貢献できる
グループ全体の経営力の強化

カーボンニュートラル
推進戦略の策定
2013年比▲100%
(2050年度目標値)

新たな高速道路
サービスの創出
実証実験数 28社

〔基本方針6〕

社会の変化に対応できる
人材力の強化と
誰もが生き生きと働ける
基盤の確立

人材育成方針の公表
2023年度策定

年間総実労働時間の削減
▲約30時間
(2021年度比)

KPIの状況 (2025年度)

本線渋滞損失時間

1,155万台/時

渋滞が発生することによる利用者の
年間損失時間(本線渋滞の発生により、
お客さまが道路を走行する際に、定常
時より余分にかかる時間の総和)

快適走行路面率

95%

快適に走行できる舗装路面の車線延
長(年度末時点で補修が必要と判断し
た箇所を除く舗装路面延長を舗装路
面の全体母数で割ったもの)

総合顧客満足度

3.7ポイント

CS調査等で把握する維持管理に関
するお客さまの満足度(5段階評価)

売上高営業利益率

10.4%

SA・PAにおける
飲食・物販・ガソリンスタンドを対象

年間総実労働時間

1,943時間

東日本高速道路(株)単体の実績

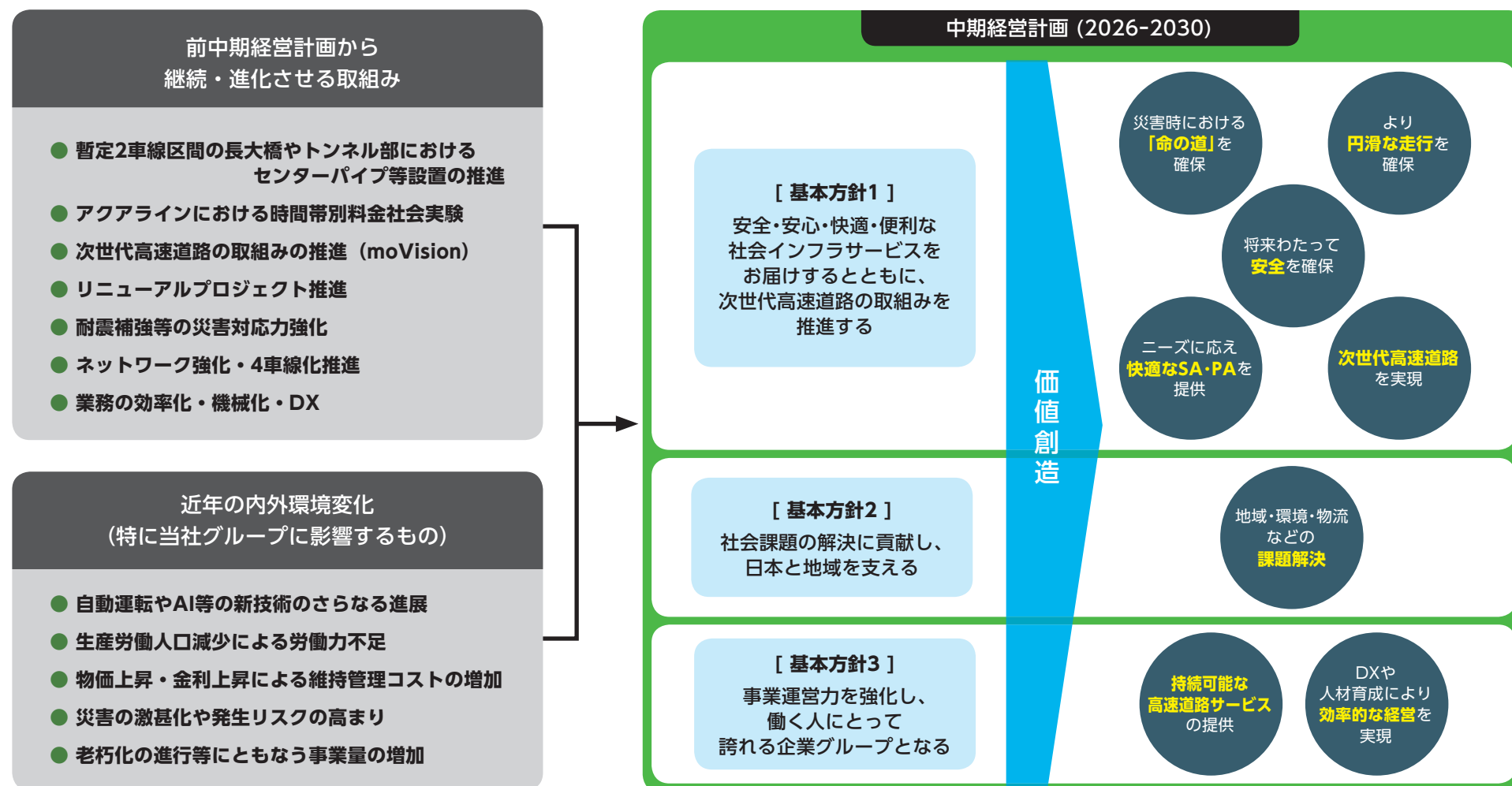
■ 新たな中期経営計画（2026-2030） ～3つの基本方針～

新たな中期経営計画期間の5カ年は、AIや自動運転、ロボティクスなどの技術の進展が期待される一方、生産年齢人口減少による労働力不足、物価・金利の上昇による維持管理コスト増加など、当社グループを取り巻く事業環境の大きな変化が見込まれます。また、自然災害の激甚化や大規模地震発生リスクの高まり、高速道路構造物の老朽化への対策についてもその重要性が高まっています。

新たな中期経営計画では、前中期経営計画の達成状況を踏まえつつ、各種環境変化

に機動的に対応しながら、高速道路の「安全・安心・快適・便利」の質をより高めていきます。あわせて、次世代高速道路に向けた取組みを加速させるとともに、地域・環境・物流などが抱える社会課題解決への貢献、さらにこれらの実現を支えるDX推進や人材育成などによる事業運営力の強化を図ります。

以上のことを踏まえ、新たな中期経営計画では3つの基本方針を定め、各種施策を着実に推進していきます。



重点計画

中期経営計画の3つの基本方針のもと、防災・減災、渋滞や事故への対策、ネットワーク機能の強化、老朽化対策、SA・PAサービスの向上、次世代技術の導入、地域連携の深化など、計画期間中に取り組むべき重要な施策を重点計画と位置づけています。

重点計画を着実に実行することにより、高速道路インフラを支える企業グループとして、お客さまや地域、社会から寄せられる期待に応えていきます。

また、これら重点計画の実行にあたり、お客さまの安全性や快適性の向上、休憩施設におけるサービス向上、社員のワーク・ライフ・バランスの達成を測る指標として、8つのKPIを設定しています。

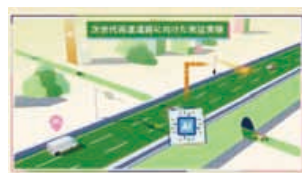
KPIの達成状況を継続的にモニタリングし、施策の効果を検証して改善につなげることで、企業価値の持続的な向上を目指します。

NEXCO東日本グループ中期経営計画(2026-2030) 詳細はこちら



[中期経営計画紹介動画]

NEXCO東日本グループ中期経営計画(2026-2030) 「未知をひらく」



主な重点計画

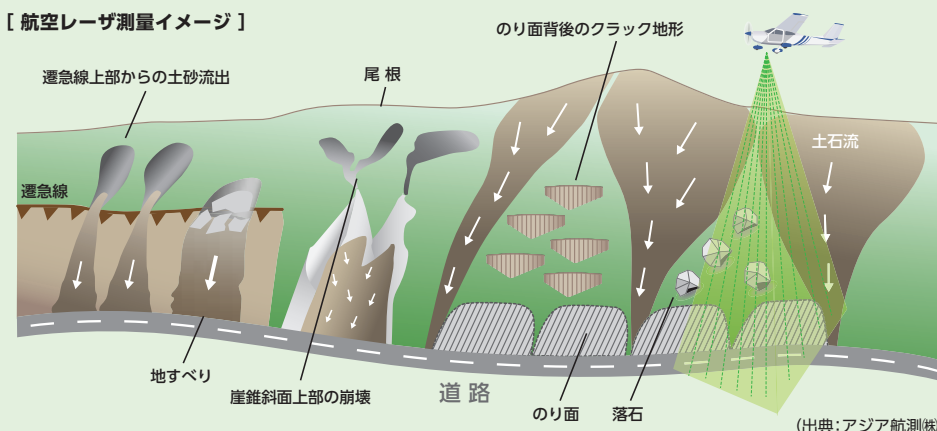
災害時における
「命の道」を
確保

- 耐震補強対策（被害の最小化と早期の機能回復）
- 首都直下地震等に備えた緊急輸送路の確保
- 高度な監視と災害時の初動体制の強化

高速道路に隣接する
危険箇所への対応

航空レーザ測量によりスクリーニングされた土砂災害の危険箇所への対応を進めることで、高速道路の安全性を高めます。

【 航空レーザ測量イメージ 】



より
円滑な走行を
確保

- 新規路線の建設
- 暫定2車線区間の4車線化・付加車線の設置
- 渋滞の解消や緩和(需要を平準化する情報提供、変動料金の導入)

将来にわたって
安全を確保

- リニューアルプロジェクトの推進
- 長大トンネル等の大規模設備の計画的な更新
- さらなる交通事故対策（逆走防止・暫定2車線区間の正面衝突事故対策）

ニーズに応え
快適なSA・PAを
提供

- 地域の魅力が感じられる商業施設の展開
- 地域企業等と連携した商品開発
- 商業施設のないエリアや夜間帯の利便性向上
(無人決済システムの導入、多様な自動販売機の設置)



次世代高速道路
を実現

- 自動運転支援に向けた実証実験
- EVへの走行中無線給電実験
- 自動運転輸送実現に向けた検証



地域・環境・物流
などの
課題解決

- 地域共創プロジェクトの実施
- 物流効率化
(SA・PA大型車駐車マス拡充、中継輸送拠点整備)
- 2050年カーボンニュートラル達成に向けた取組み
- 諸外国の道路課題解決・技術交流



**持続可能な
高速道路サービス**
の提供

- 予防保全や新技術活用によるコスト削減・効率化
- 財源確保のあり方を検討



DXや
人材育成により
効率的な経営を
実現

- DXや新技術開発による業務の効率化・高度化
- 高い使命感を持ち、自律・挑戦・協働する優れた人材の確保と育成
- 働きやすい職場環境の整備



**業務効率化・高度化を
支えるDXの推進**

AIを活用した業務の効率化(資料検索の迅速化、発注事務や工事管理をはじめとする各種業務の支援)や意思決定・判断の迅速化支援により、生産性の向上を目指します。

KPI (上段：2030年度目標 下段：2025年度との比較)

死傷事故率

1割削減

(▲0.4件/億台キロ)
※1

暫定2車線区間の
正面衝突死亡事故件数

0件

(▲2件)
※1

逆走死傷事故件数

0件

(▲3件)
※1

渋滞多発箇所数

4割削減

(▲13カ所)
※2

橋りょう耐震補強
完了率

100%

(+20%)
※3

4週間以上の
男性社員育休取得率

80%

(+44%)
※4

SA・PA店舗売上高

1,191億円

(+134億円)
※5

SA・PA連結営業利益

40億円

(+3億円)

※1 当社調べの暦年値

※2 5km以上の交通集中渋滞が週1日以上発生する箇所

※3 今後30年間に震度6弱以上の地震発生確率が26%以上の地域の橋りょうにおいて上下線いずれか一方の対策完了率

※4 東日本高速道路(株)単体の指標

※5 海ほたるPA、第三セクターおよびガソリンスタンドの売上を除く